

未来を考える会について

質問Ⅱ開催する必要があるのでは
答弁Ⅱ意見を聞く場が必要



市川 けんじ 議員

池田町長が就任してから、町内、各地域で「未来を考える会」が開催されている。

これは「地域の声を聞いて、今後の町を良くしていくためのもの」と認識をしている。平成30年12月18日に本川地区を対象とした第2回の「いの町未来を考える会」が開催された。

第1回の会で答弁した「今後、検討していきま

す」また、「今後、全庁で検討します」との答弁への回答が行われなかった。「検討した結果、次期予算に計上する」「財源確保が必要なことから、今の段階では進められない」というよ

うな、回答が必要ではなかったか。

意見を聞くだけで、1年以上たっても答えを出さないのでは、開催の必要がないのではないか。

池田町長

「未来を考える会」については、地域の皆さんが健康で明るく、安心して暮らせるよう、また、地域が元気で末永く存続していくため、地域の課題に対して、どのような施策が必要かなど、意見を集め、今後の行政活動の参考にすることを目的に行ってきた。

すぐに実施可能なものは、各担当課で実施や予算計上を行っている。解決に時間を要するものは継続としていく。頂いた意見は順次協議・検討を進めることから、参加をお願いする。

有害鳥獣対策について

質問Ⅱ補助額を増やさないか
答弁Ⅱ引き続き検討する

市川議員

有害鳥獣対策についてはどの市町村も頭を抱える問題である。対策として、鳥獣ネットは有効であると考えるが、その補助額は資材費の2分の1で町単独事業では上限が5万円、県補助は上限がないが、交付決定が遅いため、利用は少ないと聞く。交付決定を早めて、住民が利用しやすいよう、県に要望しないか。

森田産業経済課長

担当者会などで、何度か要望している。町の事務でも時間を要することから、書類作成などを事前に行い、早急に事業着手に取り組めるよう努める。

市川議員

集落活性化事業に新しく追加し、2分の1補助にしないか。

池田町長

現在の町単独事業と県補助を事業内容に沿った有害

鳥獣対策補助として使い分け、引き続き対策を行う。

有害鳥獣の有効活用について

市川議員

近年、全国でジビエ料理が有名となり、各市町村においても取り組んでいる。町としても、野生鳥獣肉処理施設や棒原町が導入しているジビエカーを構えるなど、何か活用方法は考えていないか。

森田産業経済課長

先進地視察も行い、活用に向けて、検討を行っている。施設整備には場所や保健所の許可といった、衛生面での対策や、人材の確保といった課題もあり、協議会で検討していく。

久松副町長

狭小な道路網を考えると、ジビエカー・ジュニアの導入など、来年度の協議会で検討する。

町営バス運行について

質問Ⅱ管理体制を見直すべき
答弁Ⅱ支所で取り組む

市川議員

本川地区では廃止路線バス区間に対応し、朝夕の定期バスに加え、デマンドバスを運行している。

大森地区においても4月から運行が予定されている。しかし、このデマンドバスが「予約をしていたのに、1時間待っても来なかった」との話を聞いた。

必要だから予約をしているのに来なかったら非常に困る。これは当然のことだ。町はデマンドバスの予約・管理をどのようにしているのか。また、今後、そういったことが起こらない対策として、どのように管理していくか。

野田本川総合支所次長

今回の欠便の原因は運転手からの変更依頼をシフト表に反映できていなかったもの。今後においては、運行表を住民福祉課に揭示し、課員全員が運行状況の把握ができるよう、本川総合支所全体で取り組む。